

# 頑健な決済システムの構築に向けて

— 金融情報システムセンター 25周年記念講演 —

日本銀行総裁 白川 方明

2009年11月13日

# 構成

1. はじめに
2. 今次金融危機にわが国決済システムはどう機能したか
3. 金融危機を経て改めて確認された課題
4. 日本銀行の取り組み
5. 最後に

# 1. はじめに

## 2. 今次金融危機にわが国決済システムはどう機能したか

- これまでの決済リスク削減策の評価
  - 外国為替決済における「取りはぐれ」の防止
  - 国債決済における円滑な決済の継続

# 決済システムの改善

1990年代

2000年代

現在

## 未決済残高の抑制

内為同日決済(93年) 国債T+3化(97年)

国債ローリング決済化(96年) 清算機関独立・新設(03-05年)

## 電子化・ペーパーレス化

日銀ネット稼働(88年)

完全電子化: 国債→CP→一般債→投信→株券

株券の保管振替制度(91年)

## DVP・PVP化

国債決済DVP化(94年) → 株式 → CP → 一般債 → 投信

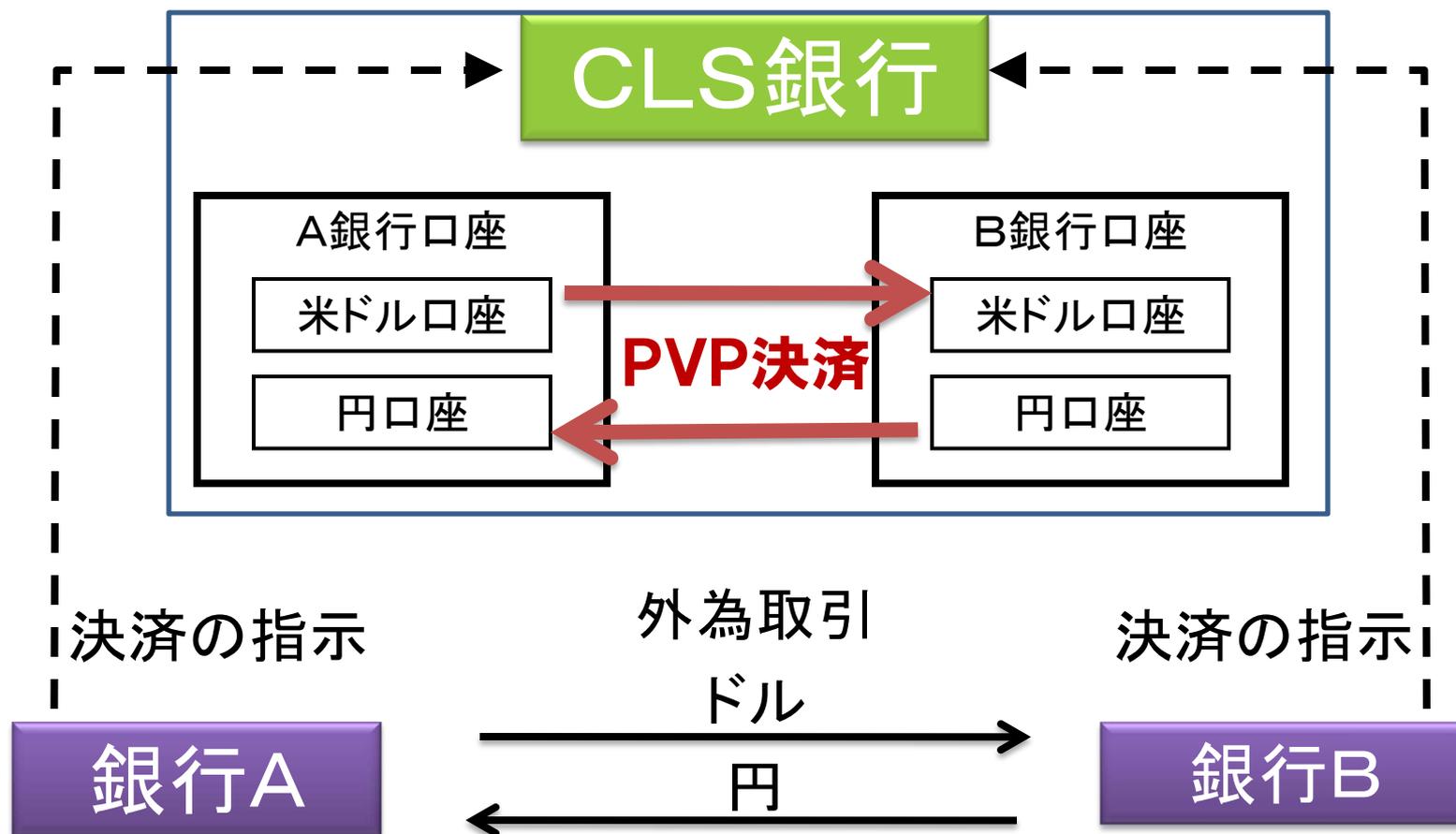
CLS稼働(02年)

## 時点決済→即時グロス決済

日銀ネットRTGS化(01年) 次世代RTGS第1期(08年)

第2期(11年)

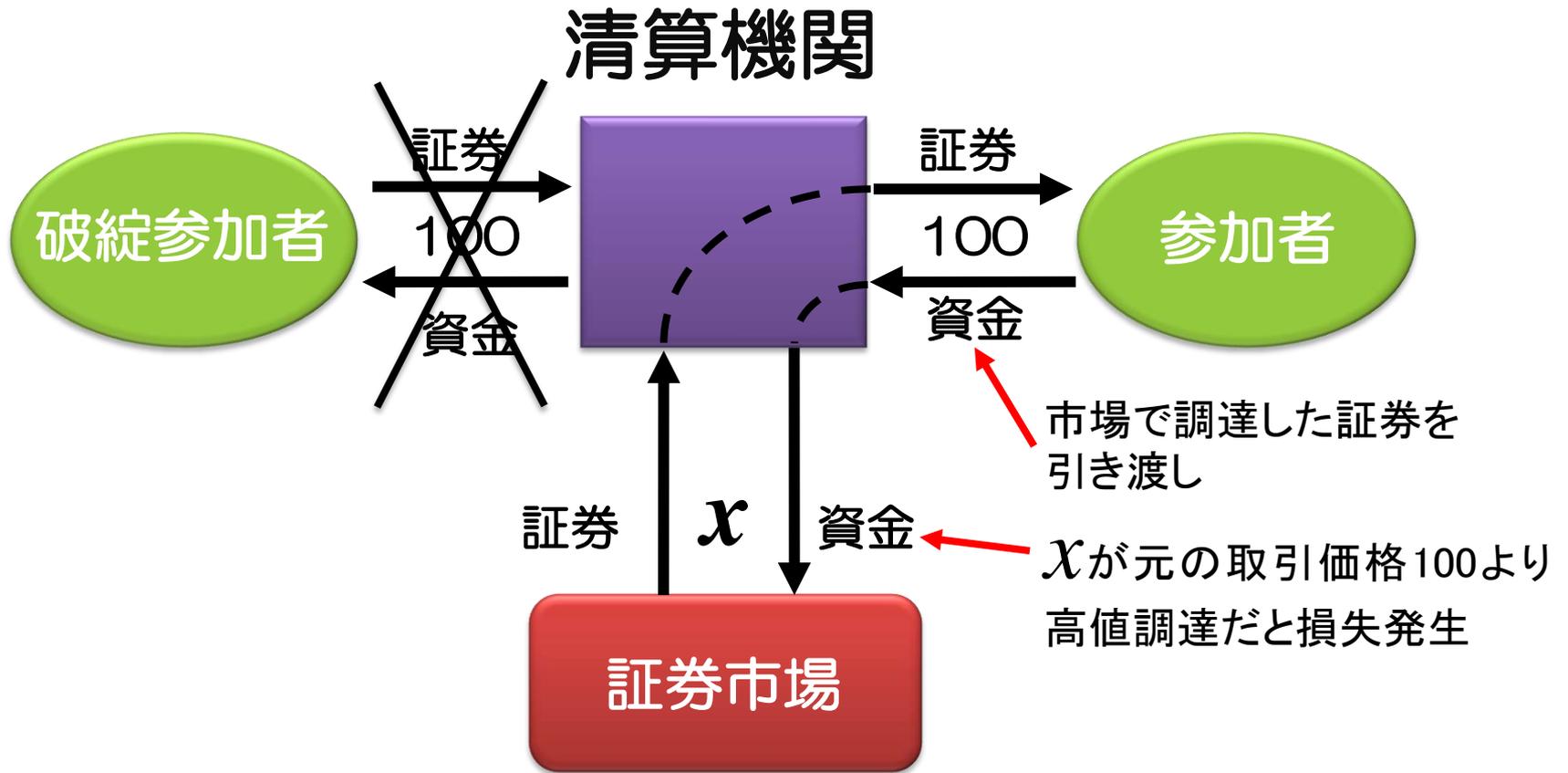
# CLSの仕組み



CLS : Continuous Linked Settlement

PVP : Payment versus Payment

# 清算機関の履行保証

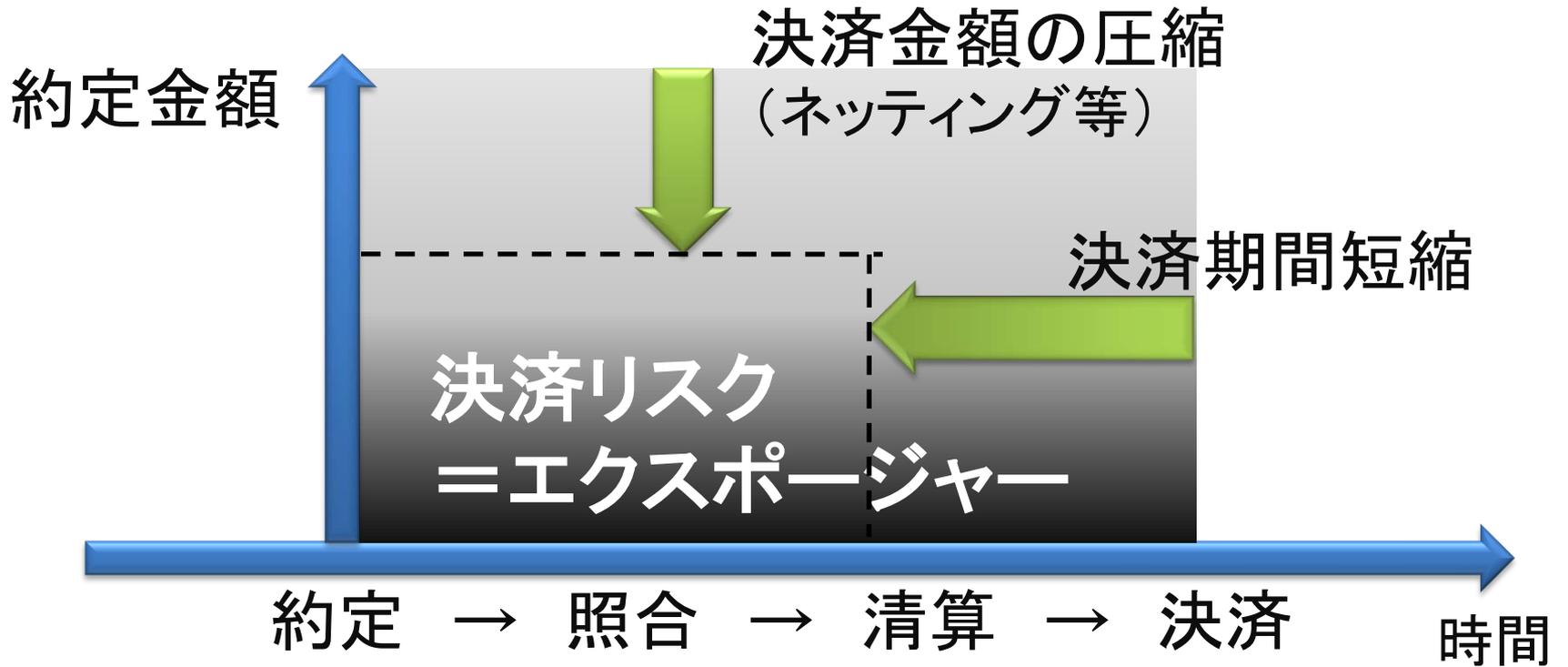


### 3. 金融危機を経て改めて 確認された課題

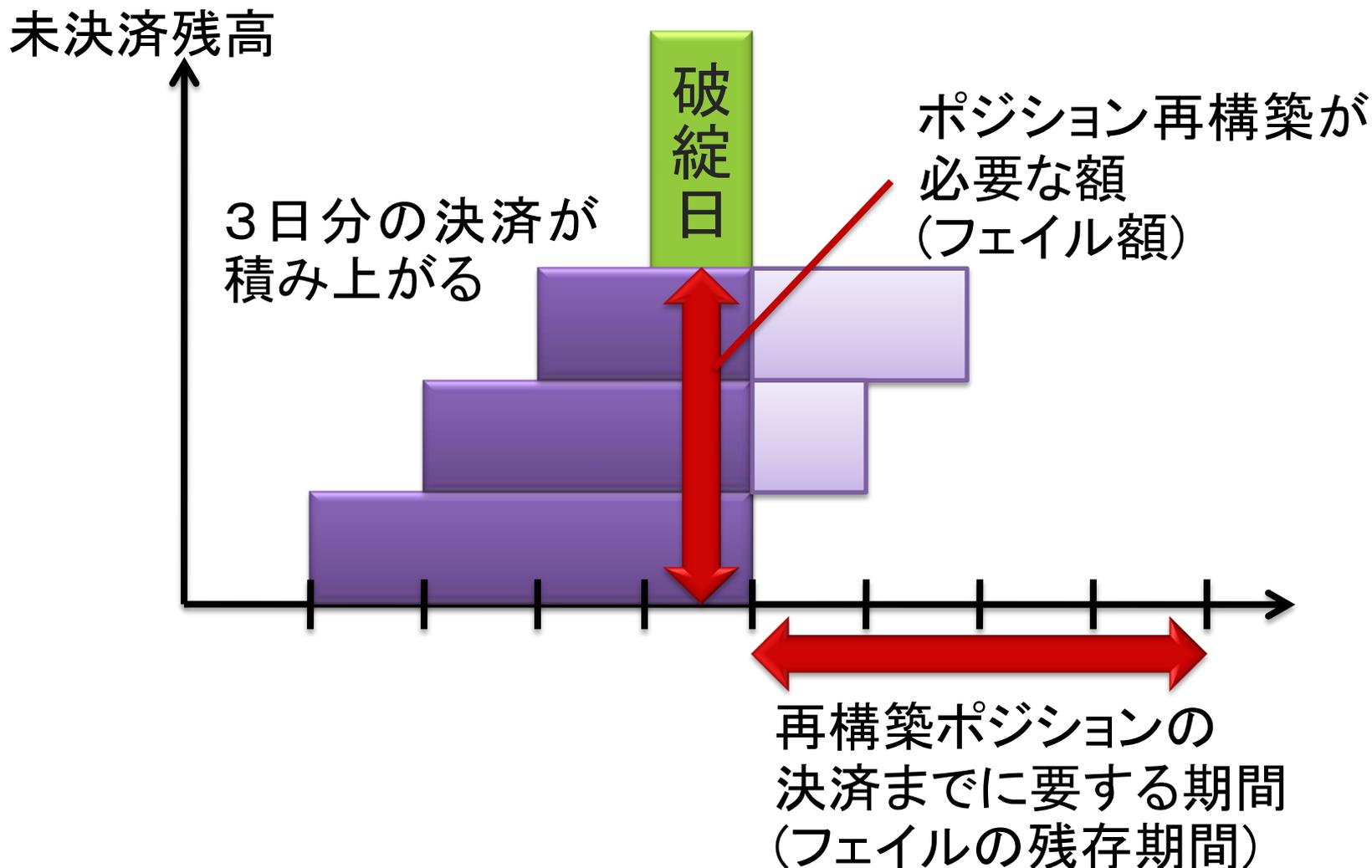
- 未決済残高の抑制
- 参加者間の決済の相互依存性に応じた対応策
- 主要な決済機能の代替可能性の向上

# 決済リスクとは？

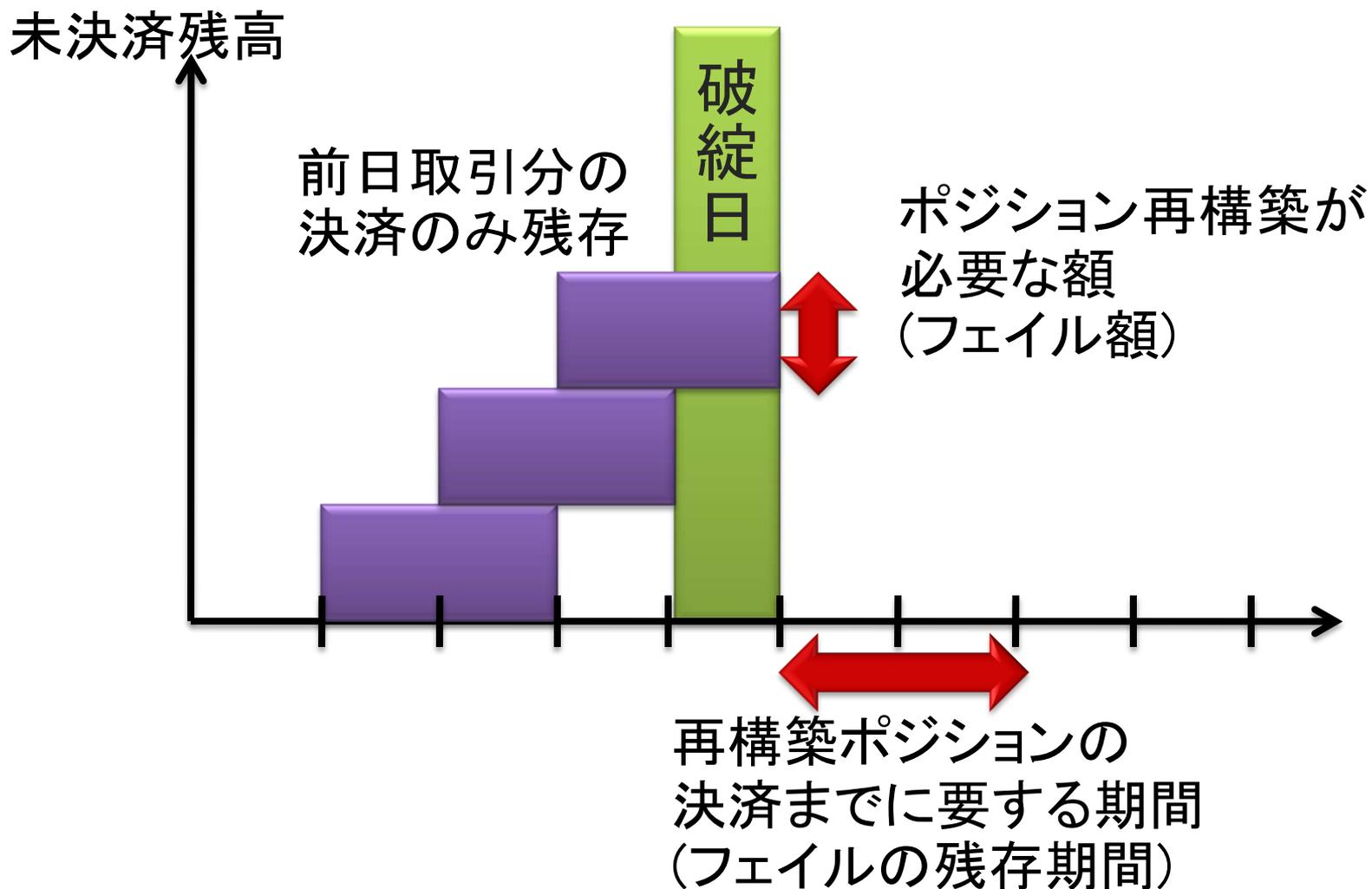
二つのリスク削減法



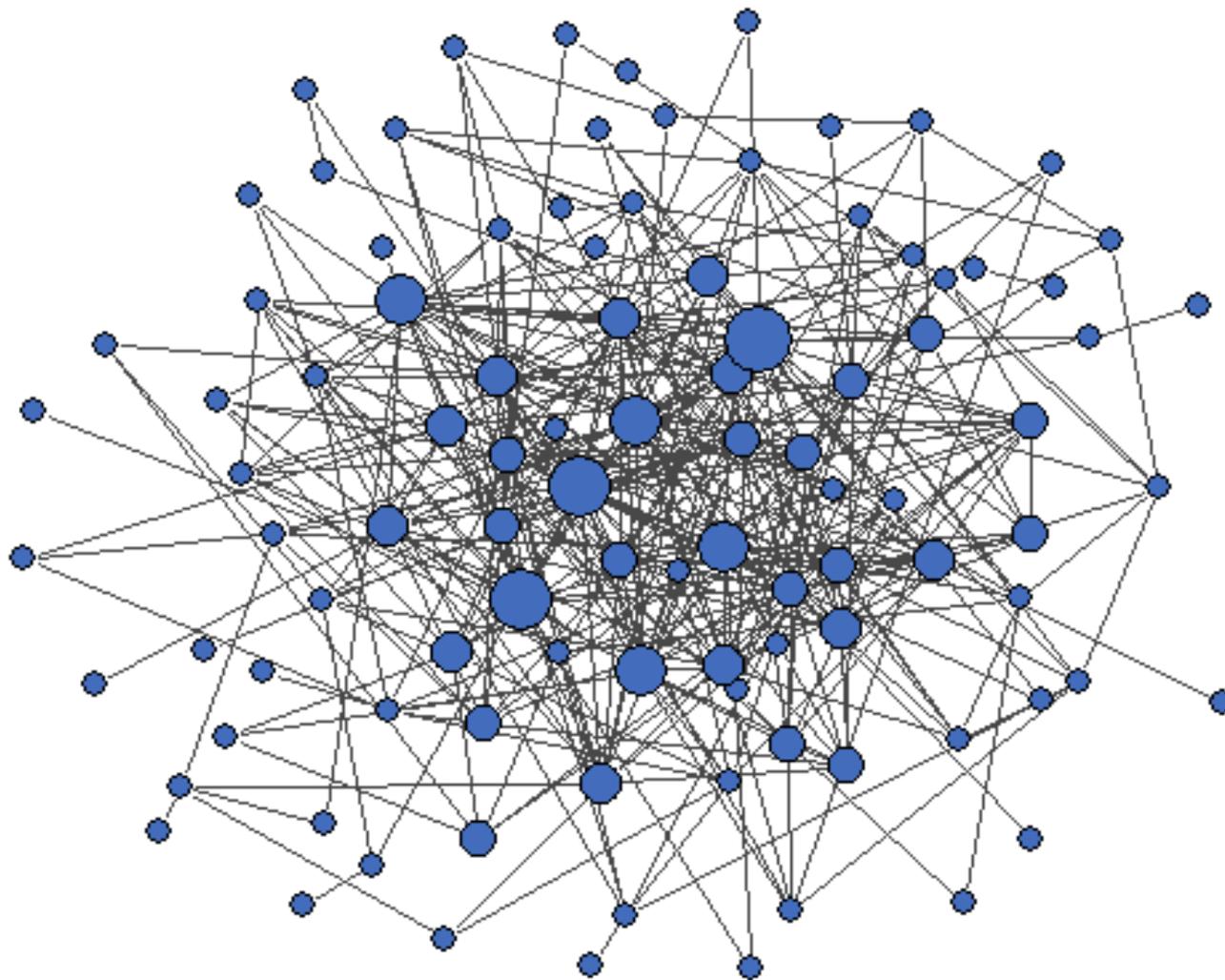
# 決済期間: $T+3$



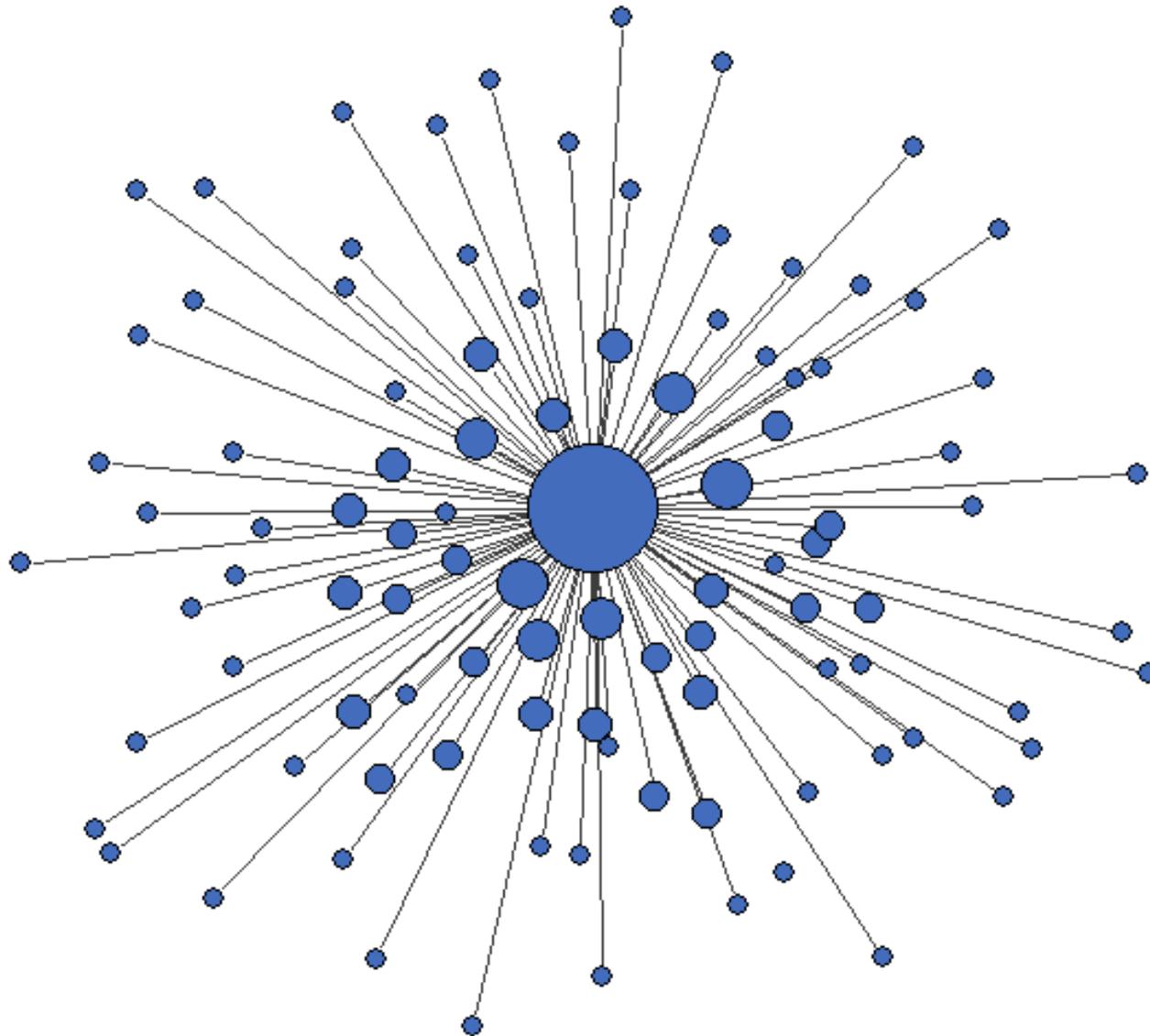
# 決済期間: $T+1$



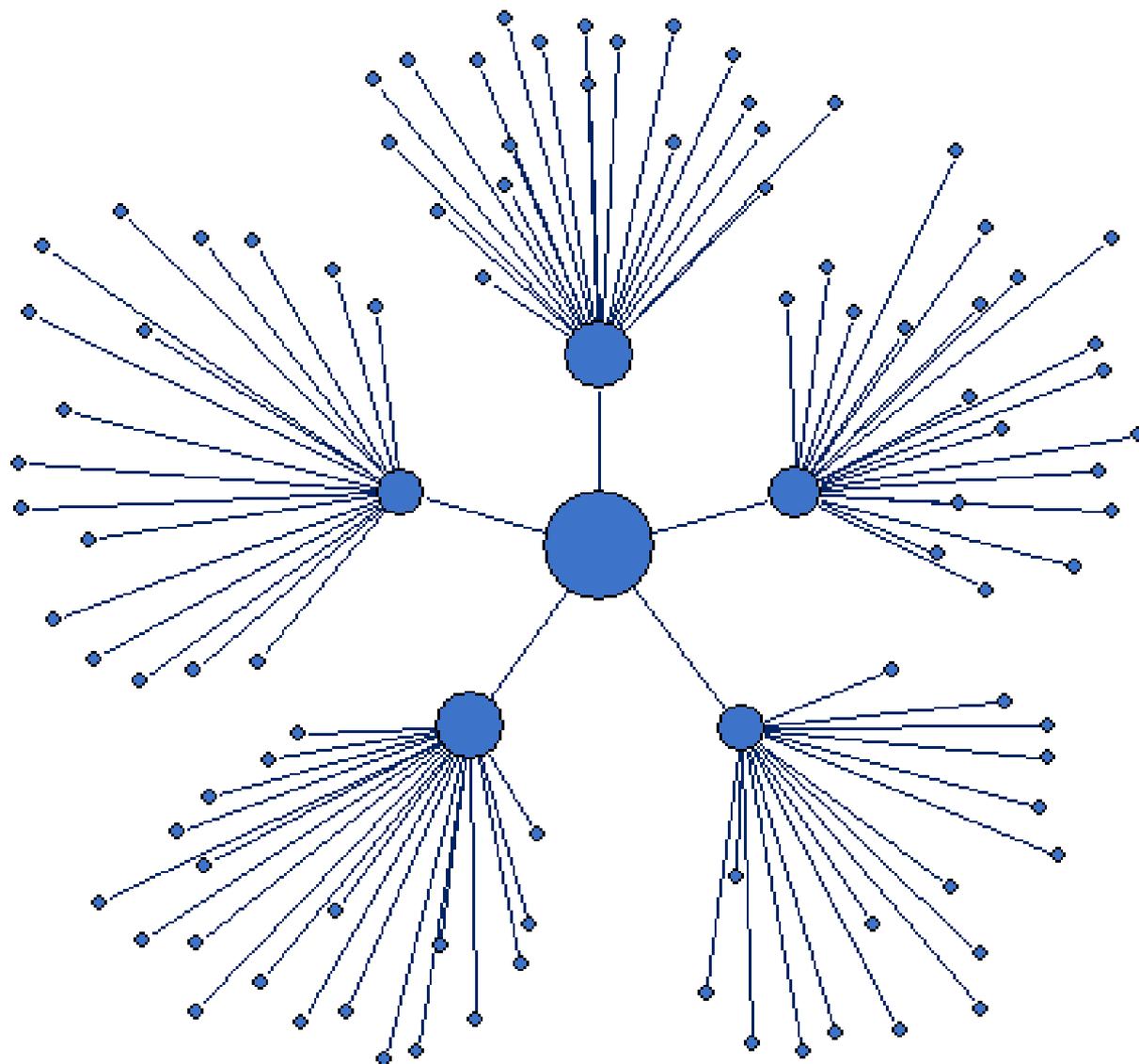
# 相対決済型ネットワーク



# 清算機関型ネットワーク



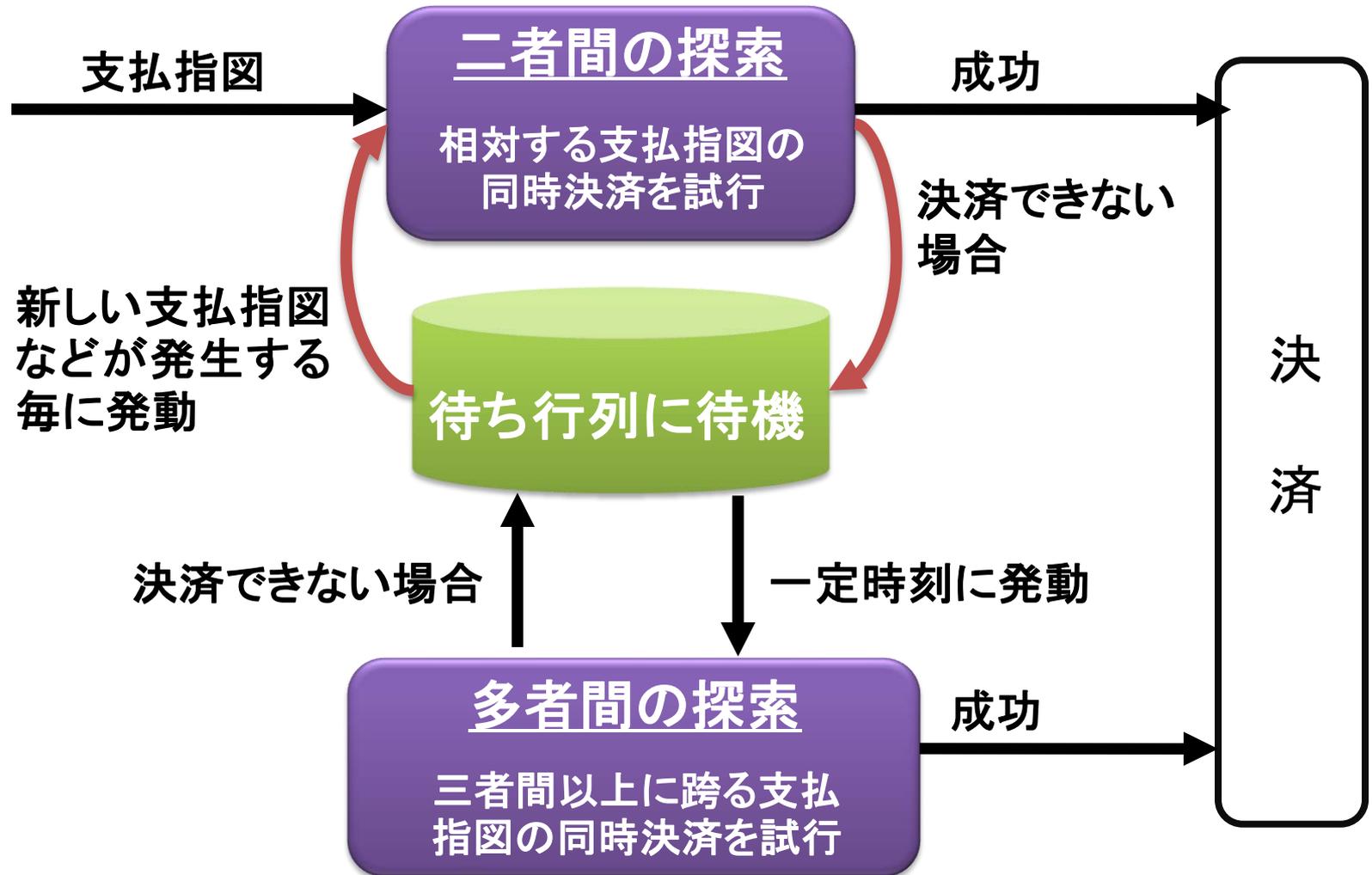
# 階層型ネットワーク



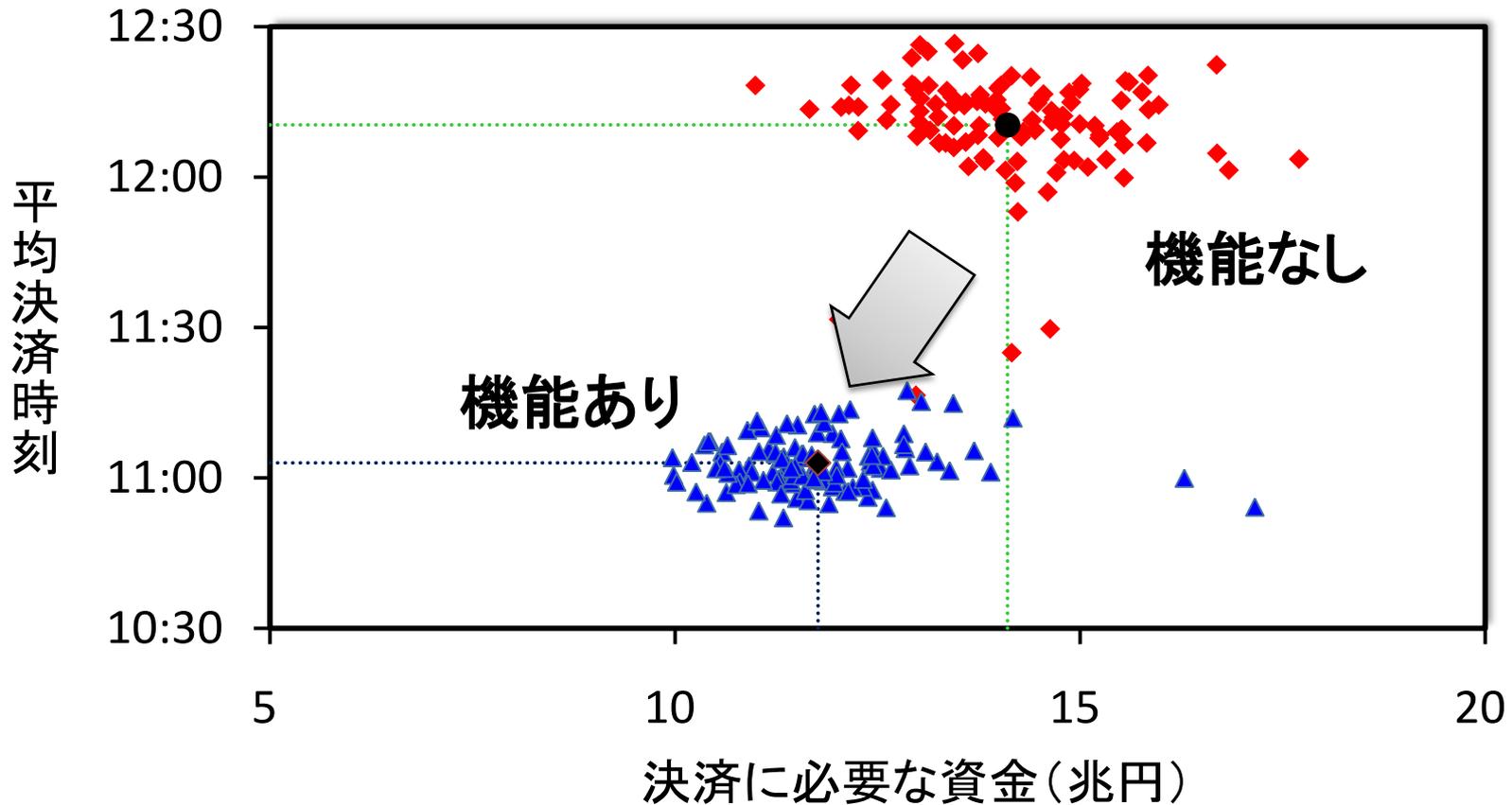
## 4. 日本銀行の取り組み

- 日銀ネットの安全性、効率性向上
- 民間決済システムに対するオーバーサイト

# 流動性節約機能の仕組み



# 日銀ネットにおける流動性節約機能の効果

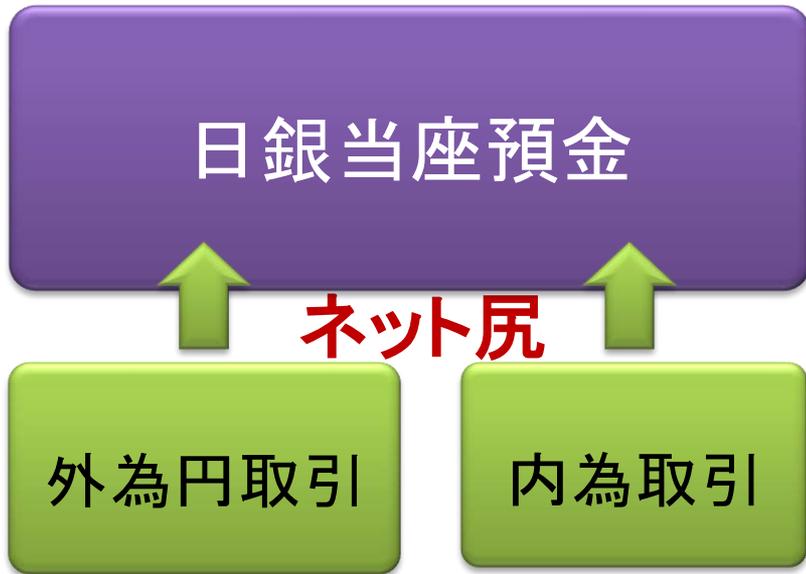


注) 「機能あり」の点は、次世代RTGS第1期対応後の2008年10月~2009年3月の日次データ、「機能なし」の点は、前年同期間の2007年10月~2008年3月の日次データに基づき計算。

# 「次世代RTGS」

第1期対応前  
(2008年10月以前)

第2期対応後  
(2011年11月以降)



RTGSの対象

時点ネット決済の対象

## 5. 最後に